



# ヤオ族の衣文化

# ヤオ族の衣文化

ヤオ族は中国の一部とタイ、ラオス、ベトナムの山地に暮らす民族です。1967年～74年にかけて、上智大学の調査団によるタイ西北部に住む山地民の調査が行われました。その際に調査団によって収集された資料は2000年に上智大学から南山大学に移管されています。本展示ではその中から衣服や服飾小物を取りあげ、ヤオ族の衣文化についてご紹介します。

布地に施された鮮やかな刺繍をはじめとする装飾には、祈願や始祖伝説の継承、世界観の表象などの機能もあるとされています。山地に暮らすヤオ族の生活の様子に思いをはせながらご覧ください。

## 衣装と装身具

衣服には普段着と晴れ着の区別や季節に合わせた区別がなく、老若、もしくは未婚か既婚かという区別もありません。正装の場合には、特別に装飾を施した前掛け、肩掛け、帯、銀の装具品などを普段着に加えて身につけます。女性が身につける装身具は耳飾り、ターバンに巻きつける銀紐、首輪、腕輪、垂飾などがあります。展示にもある女性袴は袴用刺繍布2枚、腰部1枚、股下部2枚の布を縫い合わせて作られています。



肩掛袋

刺繍は生地  
の補強  
にもなるよ



女性袴



首輪

クロスステッチ



女性前飾



子守り用肩掛

## 男性の衣装

ヤオ族の男性の衣装は上衣と袴、腰帯です。上衣は襟ぐりから前身頃の辺りに銀紐の縁取りがされていて、着物のように首から斜めに開くことができます。袴は部族に伝わる伝統的なものを履いています。年老いた男性にのみ帽子を着用するという慣習も見られます。全体的に女性用に比べて刺繍が少なく、袖や襟に小さくアップリケのようなものが施されています。



男性腰帯



鈴がついているよ

男性上衣



男性袴

# 女性と刺繍

ヤオ族の女性の生業は紡織と刺繍です。ヤオ族の女性にとって、刺繍ができることは嫁に行くことのできる資格でした。紡織は調査した村では廃れてしまったといわれています。衣服に直接施される刺繍は、多色の糸を縦横に差し込んで、色彩豊かで抽象的な模様を表現します。刺繍の模様には、太陽などの天体、猛獣のトラ、龍などの霊獣、そして植物を抽象化した伝統的なデザインがみられます。

柄は何に見えるかな？



女性袴用刺繍布



刺繡布



刺繡布



女性サロン